教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 高松　正毅　先生	おすすめメッセージ
①　図書名：品格語辞典 著　者：関根健一監修、大修館書店編集部編 出版社：大修館書店　　ISBN：9784469021240	推薦者は、大学でレポートや論文の書き方を主として担当している。学術的な文章を初めて書く学生諸君は、なによりもまず適切な言葉や表現を知らない。それゆえ、混沌・雑然・支離滅裂・無秩序＝めちゃくちゃな文章を書く。人の発想は日常的な思考の域を出ることがなく、日常的に使用する語彙でしか思考をすることができない。 それらを「品格語」と呼ぶのが適切か否かは置くとして「ピンチだ」を「窮地に陥る／立たされる／追い込まれる」、「頑張る」を「努める」「勤しむ」「精進する」「研鑽に励む」などと言い換えることのできる力は、レポートや論文を書く際には必須のスキルである。真っ当な学術的文章が書けるようになるために、本書を「読む辞典」として勧めたい。
②　図書名：ヤバい BL 日本史 著　者：大塚ひかり 出版社：祥伝社　　ISBN：9784396116798	推薦者が男色に興味を抱いたのは、学部時代に、東野治之（1979）「日記にみる藤原頼長の男色関係ー王朝貴族のウィタ・セクスアリス」『ヒストリア』84 号と五味文彦（1984）『院政期社会の研究』山川出版社により、藤原頼長の日記『台記』の存在を知ってからである。大学院の指導教授であった杉本つとむの師匠は西鶴研究の第一人者暉峻康隆（つまり推薦者はその孫弟子）で、その影響もあり西鶴の作品をそれなりに読んだが、たとえば、浮世草子『男色大鏡』では、男色を武士のたしなみとして扱っている。フランシスコ・ザビエルもルイス・フロイスも、キリスト教の立場から男色を批判しているが、有史以来、日本では男性同性愛への禁忌は一貫して一切なかったのである。 腐女子にかぎらず、偏った考えを正すべく本書を勧めたい。
③　図書名：バカと無知 著　者：橘玲 出版社：新潮社　　ISBN：9784106109683	本書は、同著者の『言ってはいけない』『もっと言ってはいけない』に続くもので、多数の研究論文に基づき「社会の残酷な真実」をえぐり出すものである。その多くが、必ずしも知りたくはない眉をひそめるようなことがらなのに、知れば考え方が変わらざるを得ない。 たとえば、「ダニング＝クルーガー効果」と呼ばれる認知バイアスがある。簡単に言うと「バカな人ほど、自身の能力を高く評価する傾向がある」ことで、どうして、そんなことが起こるのかというと、バカはバカであるがゆえに自身の能力を正しく評価することができず（メタ認知能力が低く）、集団から追い出されまいとする生存本能のために実際よりも過大に評価しがちになるのだという。よって、バカにつける薬はなく、バカは死ななきゃ治らないのである。